

第 31 回大分 N S T 研究会を終えて

令和 3 年 1 月 23 日（土）、第 31 回大分 NST 研究会を、初の Web にて開催いたしました。コロナ禍でご多忙な中、155 名の方に参加いただきました。

今回は「多職種連携によるシームレスな栄養管理を考える」をテーマとし、NST に関わる全ての職種が、慢性期から急性期の栄養管理を幅広く学べる機会となるように企画いたしました。なお、Web 開催のため、一般演題は募集しておりません。

教育講演 1 では、社会医療法人近森会近森病院 臨床栄養部部長 宮島功先生に、「当院のチーム医療と集中治療室における栄養サポート」と題して講演いただきました。各病棟に専任栄養士を配置し、患者の病態や症状の変化により速やかに介入するという先進的な取り組みを紹介いただきました。近森病院では、チーム医療において、医療専門職がそれぞれの専門業務に特化した活動を実践しており、我々の施設においても参考になる大変貴重な講演でした。

教育講演 2 では、神戸大学医学部附属病院 薬剤部主任 木村丈司先生より、「高齢者のポリファーマシーと栄養管理」と題して、ポリファーマシーに対する考え方やツール、検討すべき薬剤について、神戸大学病院での取り組みを紹介していただきました。高齢者では薬剤の副作用として食欲低下や嚥下障害、便秘など栄養管理に関連する問題が起こる場合があるため、NST 活動においても、不適切処方を把握する必要があると講演されました。

特別講演では、千葉県がんセンター 食道・胃腸外科部長 鍋谷圭宏先生より「チーム医療で学んだ栄養管理と外科医の役割 Part II ～トータルケアを目指す千葉県がんセンターの挑戦～」と題して講演いただきました。がん治療患者に対する栄養サポートは「食べたいに応える」ため、同時に多くの職種の視点で患者を診て「トータルケアを目指す」ことが重要であると指摘されました。NST メンバーの各専門職が specialist としての活動は当然ですが、患者へのサポートを俯瞰的に見る力も全スタッフに必要となります。そのため、NST の各専門職は、specialist であるとともに generalist でなくてはならないと話され、これらの考え方はチーム医療のみではなく、医療にかかわるメディカルスタッフ業務を考え直す機会となりました。

なお本来であれば、講師と参加者との懇親会を開催し交流を深めるのですが、今回は開催できず、残念でした。

最後になりましたが、本研究会の実施にあたり協賛いただきました株式会社大塚製薬工場の皆様、事務局をはじめご尽力いただきました関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

第 31 回大分 NST 研究会当番世話人 大分大学医学部附属病院 伊東弘樹